

1. 職名・氏名 教授・河原昌一郎

2. 学位 学位 博士(農学)、博士(安全保障)、専門分野 中国農業、安全保障、授与機関 東京大学、拓殖大学、授与年月 2009年3月、2015年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品流通論（2）2年次 2018年度 15コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 日本の食料をめぐる状況とともに、食品流通に携わる組織、食品価格の形成等に関する事情を理解する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 図、グラフ、画像等を適宜用いることにより、食品流通の理論、制度、実際に関する理解が深まるようにした。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋生物資源情報論（1）3年次 2017年度～2018年度 8コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 漁業情報システムの概況を把握し、その役割を理解する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実際の画像を見ること等により、漁業情報の実際に関する理解が深まるようにした。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 漁業制度論（2）3年次 2017年度～2018年度 15コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 我が国の漁業制度の経緯と内容についての理解を深め、その特色を考察する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 漁業制度に関する主要な論点を毎回の講義で学生に整理させ、学生の的確な理解に資するようにした。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品流通調査演習（2）2年次 2018年度 1コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 卸売市場、食品加工業、食品小売企業等を訪問し、その実態を把握、考察する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 調査結果の発表に立ち合い、卸売市場の機能等についての理解がより深まるよう努めた。	

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋社会科学（2）修士課程 2017年度～2018年度 7(分担)
②内容・ねらい（自由記述） 海洋社会科学の基礎となる海洋制度についての理解を深める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 海洋制度の基本を把握した上で、主要な判例を学習することにより、同制度の実際についての理解を深めるようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋ビジネス論（2）修士課程 2018年度 15コマ
②内容・ねらい（自由記述） 海運、港湾、国際物流等の海洋ビジネスに関する基本的事情を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） テキストの各章の要点を毎回整理させ、学生の理解に資するようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 インターンシップ（1）3年次
②内容・ねらい（自由記述） インターンシップを経験させ、就職活動の一助とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） インターンシップの申請書作成について学生ごとに教員の分担を決め、きめ細かく指導した。
<b>(2)非常勤講師担当科目</b>
①担当科目名（単位数） 開講学校名
②内容・ねらい（自由記述）
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
④本学における業務との関連性（自由記述）
<b>(3)その他の教育活動</b>
内容

#### 4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・河原昌一郎、高橋祐一郎、末永芳美「ホタテガイの中国向け輸出拡大と国内産地への影響等に関する考察」(『農林水産政策研究』投稿)</li></ul>
<p>②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・『民主化後の台湾－その外交、国家観、ナショナリズム－』、単著、2016年、彩流社</li><li>・『日中文化社会比較論－日中相互不信の深層』、272ページ、単著、2018年、彩流社</li></ul>
<p>③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・河原昌一郎「アジア太平洋の貿易構造と『米中貿易戦争』」淡江大学国際フォーラム、淡江大学、台北、2018年11月8日</li><li>・河原昌一郎「中国向けホタテガイの輸出拡大に関する問題について」農林水産政策研究所定例研究会、農林水産政策研究所、東京、2018年11月6日</li><li>・河原昌一郎、高橋祐一郎、末永芳美「ホタテガイの中国向け輸出拡大と国内産地への影響等に関する考察」日本水産学会、広島大学、広島、2018年9月17日</li></ul>
<p>④その他の公表実績</p> <p>講演「『米中貿易戦争』－アジア太平洋の貿易構造と米国の対中戦略－」国家生存戦略研究会講演会、2018年12月27日</p> <p>講演「米中貿易戦争」日本安全保障・危機管理学会国家戦略・安保法制研究部会講演会 2018年12月26日</p> <p>講演「日中の文化社会の比較と日本の対応」第53回安全保障・危機管理セミナー(日本安全保障・危機管理学会)、2018年12月4日</p> <p>講演「緊迫する南シナ海情勢－仲裁裁判所判決とその後の動向－」国家生存戦略研究会講演会、2018年3月23日</p> <p>講演「習近平の『新時代』」日本安全保障・危機管理学会国家戦略・安保法制研究部会講演会、2017年12月27日</p> <p>講演「蔡英文政権下の中台関係と日本の対応」日本安全保障・危機管理学会中部地区学会講演会、2017年12月10日</p> <p>講演「東アジアの安全保障－米中台関係を中心に－」東京台湾の会講演会、2017年12月9日</p> <p>講演「日本の良さを生かす－日中文化の相違から－」日本安全保障・危機管理学会国家戦略・安保法制研究部会講演会、2017年8月3日</p> <p>報告「『米中貿易』の本質」『安全保障と危機管理』第46号2018年12月</p> <p>報告「米台関係の強化と米国の一中政策」『安全保障と危機管理』第45号2018年9月</p> <p>報告「習近平の権力集中過程の特色と今後」『安全保障と危機管理』第44号2018年6月</p> <p>報告「戦争の回避・不回避－米国と北朝鮮の場合－」『安全保障と危機管理』第43号2018年3月</p> <p>報告「蔡英文『堅実外交』の限界」『安全保障と危機管理』第42号2017年12月</p> <p>報告「中国『一帯一路』の虚像」『安全保障と危機管理』第41号2017年9月</p> <p>報告「中国の市場経済国問題とWTO」『安全保障と危機管理』第40号2017年6月</p> <p>報告「トランプの『一中政策』見直し発言の背景」『安全保障と危機管理』第39号2017年3月</p>

報告「中国の国家的性格－仲裁裁判所判決への対応から－」『安全保障と危機管理』第 38 号 2016 年 12 月 報告「中国で進む『警察国家』化」『安全保障と危機管理』第 37 号 2016 年 9 月 報告「台湾総統・立法委員選に見る『中国への恐れ』」『安全保障と危機管理』第 36 号 2016 年 6 月 報告「転機を迎えた南シナ海情勢」『安全保障と危機管理』第 35 号 2016 年 3 月
<b>(2)学会活動等</b>
学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日））
学会での役職など（学会名） 一般社団法人日本安全保障・危機管理学会副理事長
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）
<b>(3)研究会活動等</b>
①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間）） 北東アジア学会会員 国際安全保障学会会員 現代中国学会会員
②その活動による成果  日本安全保障・危機管理学会・研究会では、概ね月に一回程度、一般向けのセミナー（1 時間 45 分）を開催しているが、最近では以下のセミナーで講師として講演を行った。 2016 年 10 月 26 日 演題「台湾の民主主義と蔡英文政権の今後」
<b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>
<b>(5)特許出願</b>

## 5. 地域・社会貢献

<b>(1)学外団体</b>
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間） 農林水産政策研究所客員研究員、水産物輸出（調査研究）、中国土地問題（調査研究、報告書提出、各種諮問への対応、資料提供）、平成 30 年度
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） 一般社団法人日本安全保障・危機管理学会（名誉会長安倍晋三）、副理事長として業務運営全般に関与。 一般財団法人企業危機管理支援機構（理事長：坂口力元厚生労働大臣）に評議員として参画した。同機構は、企業の危機管理に関する普及・啓蒙活動等を行うため平成 29 年 8 月に設立されたものであるが、その設立に積極的に関わり、役員選出等を行う評議員（3 人）として運営に関与していくこととなった。

④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)  小浜キャンパスを育てる会(総会) 講演「日本の良さを生かすー日中文化の相違からー」2017年6月16日 小浜市中央公民館
⑥その他 (名称、活動場所、活動期間) 福井県立大学教員免許状更新講習講師 「水産食品流通と食品経済」、当大学内、2018年8月28日 日台友好芦屋の会総会記念講演(衆院議員出席)、竹園ホテル、2018年7月7日、演題「東アジアの国際政治と台湾」 近畿修猷会「教養講座」、大阪日土地淀屋橋ビル、2017年7月29日、演題「蔡英文政権の成立と中台関係」
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講 (タイトル名、開催場所、開催日時) 「日中文化の衝突ー中国とどう向き合うかー」、小浜商工会議所、2018年7月6日
②社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)
③その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等) (活動内容、主たる活動場所、活動期間) 国家生存戦略研究会副会長

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2)委員会・チーム活動 (名称、期間) キャリアセンター協議会 2017年度～2018年度
(3)学内行事への参加 (行事名、参加日時) ランチタイムセミナー 2017年5月18日発表、タイトル「緊迫する南シナ海情勢ーフィリピンの対中国提訴問題を中心にー」
(4)その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間) 韓国全南大学校海洋水産大学 同大学に2017年8月21日から25日までの間、大竹、伊藤両教員を派遣することについて、部内での連絡・調整を行った。 韓国全南大学校海洋水産大学 同大学の李文沃、黄斗湊両教授の当大学訪問(2018年7月29日から8月1日)の受入に関して、部内での連絡・調整を行った。